教育目標『すべての生徒が安心して学習できる学校づくり』　校訓『明けく・浄く・直く』　連絡先《TEL 42-2149》

平成３０年度
赤穂市立赤穂中学校
「学校だより」

荒神台

NO.47
平成３０年５月８日発行
文責 校長（平 井 正 彦）

部活動の運営を見直します

学校の「部活動」は、歴史や伝統、地域の願いなどとも重なり、保護者の方の協力と教職員によるボランティア活動によって、地域スポーツや地域文化活動の拠点としての役割を果たしてきました。

部活動は、学校の教育課程には含まれない活動ですが、自主的・自発的な運動や文化活動を通して、子どもたちの自立や社会性・協調性の向上、そして大人への成長など、授業だけでは学べない体験的で実践的な活動の場として位置づけ、顧問の先生の指導により活動を続けています。

しかし、地域でのスポーツ活動は、関連するスポーツ施設の充実や活動種目の多様化、人気など、時代とともに、ずいぶん様変わりしています。また、少子化によって、種目ごとの部員の数も減少し、団体種目として必要な人数がそろわない種目もできるなど、部としての活動に支障が出ている現状もあります。

さらに、少子化は、学校の先生の数の減少を意味します。生徒の安全を確保し、顧問への過剰な負担を少しでも軽くするために、各部に２名の教員を配置していますが、現在、13の部活動において、４つの部活動が２名体制ではなくなっています。

学校は数年前に、コーラス部、女子バスケットボール部、男子卓球部の部員募集を停止し、平成28年度末に廃部としましたが、さらに生徒数は減少し、現在、全生徒数は354人です。今後もこの程度の生徒数で推移すると見込んでいます。以前のように、全校生徒500人、600人、最多時は1,000人を超えて、多くの生徒と先生が活動をしていた頃と同じような運営ができなくなっています。

また、顧問の先生も、担当種目の競技経験や指導経験がない場合が多く、その種目や指導方法の勉強に多くの時間を費やし、本業（授業）のための時間が後回しになることも珍しくありません。

学校は、保護者のご厚意を受けてコーチとしてご協力いただいたり、部活動指導補助員を本年度より配置したりするなど、顧問の経験不足を補う対応も進めているところです。

本校の限られた条件・時間、生徒数、教員数の中で、部活動本来の目的を見失うことなく、将来にわたって安定した活動ができるように、部活動の運営について、さらに見直す必要が出てきています。

そこで、第２次の部活動数の削減に踏み切ることとし、削減数、種目などの具体的な検討に入りたいと考えています。

学校が多彩な種目を設定し、生徒に、自分の適性や希望に添った部活動を選ばせてやりたいという気持ちは、保護者や地域の関係者のみなさんと同じです。しかし、それをこれまでと同じ体制で、実現させることが困難な状況にあることをご理解ください。

JRCスピリッツ賞

□　福田　陽菜さん(2-1)
□　淵上　華怜さん(2-3)

■いろいろな家庭事情のために、一人で夕食を食べたり、十分な食事をとれない子どもたちに食事を提供し、一緒に勉強したり、遊んだりする居場所づくりを進める「あこう子ども食堂」が始まっています。ボランティアで運営され、多くの子どもたちで賑わっています。

■「ボランティア募集」の案内を見て、自分も人の役に立ちたいと、けん玉持参で参加し、小さな子どもたちと触れ合い、自宅が遠い子どもを家まで送り届けるなど、その姿に、多くのボランティアの方から感謝されていることがわかりました。ボランティアの必要性に気づき、考え、自分で行動し始めた彼女たちに、『JRCスピリッツ賞』を贈ります。(5/1生徒集会)

ボランティア・奉仕活動
『みんなの役に立つ』生き方を！

■定期的に坂道清掃をしてくれる環境部、また、活動に協力し、参加してくれる各部活動の多くの部員がいます。そして、私が知らないだけで、きっと、校内のあちこちで、『みんなの役に立つ』いろいろなボランティアが動いていることでしょう。ありがとう。

◇平成30年度の学校経営の目標と方針（概要）です◇

学校教育目標

すべての生徒が安心して学習できる学校づくり

◇めざす教師像

- □ 人権感覚を磨き、人と命を大切にします
- □ わかる授業をめざして、工夫します
- □ 生徒の気持ちに寄り添い、支え伸ばします
- □ 生徒の力に期待し、信じます
- □ 厳しさと愛情をもって、生徒と関わります
- □ 自分を鍛え、学び、成長します

◇生徒の実践項目

- □ 礼儀正しく、人を大切にします
- □ 授業を大切にします
- □ 自分からあいさつします
- □ ありがとうがあふれる学校をつくります
- □ 人の話をしっかり聴きます
- □ １日１か所きれいにします
- □ くつを揃え、こころを揃えます

◇具体的な取組〔抜粋・要約〕

□学校環境（人・物・心）づくり

●人権を尊重し、いじめ・暴力・差別を許さない学校●規律正しく、温かい学校●父性と母性のバランスのとれた学校●人や物を大切にし、心を引き継ぐ学校●あいさつと感謝の言葉があふれる学校

□支え合う仲間づくり

●ＪＲＣ（青少年赤十字）の態度目標『気づき・考え・実行する』の実践●生徒の力を引き出し、伸ばす特別支援教育の充実●兵庫県冒険教育（HAP）プログラムによる仲間づくり（１年野外活動）●主体的な生徒会活動と自浄力の向上●違いを認め合う仲間づくり●心をそろえる集団活動

□地域との絆づくり

●地域で活躍する生徒づくり●オープンスクールの拡充●地域への貢献（地域との連携）●地域資源・人材の活用

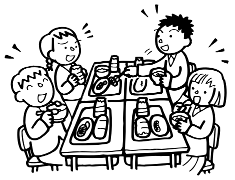
□人づくり

●一貫した指導方針による「見届ける・見放さない生徒指導」●地域人材の活用によるキャリア形成の支援●「厳しくかわいがる」生徒との関わり●校長講話を生かす学級指導●公私の区別とことばモードの切り替え●ボランティア活動の活性化

□教職員の資質向上

●研修と研究推進の充実、教職員の人権意識向上●授業公開週間の実施●わかる授業づくりへの工夫と改善

□学校業務の改善・勤務時間の適正化



●水曜日「ノー部活デー」「定時退勤日」●校内文書のＡ版統一

□学校情報の発信

●学校だよりの発行と校区内全戸回覧●学校ＨＰの刷新と定期的更新

□新学習指導要領への移行

●特別支援教育の充実（特別支援学級、通級指導）●コミュニケーション能力の向上をめざす英語教育●保護者の道徳授業参観と意見交換●道徳の授業実践と評価のあり方の研究●キャリア教育・進路学習の充実

□本年度の生徒指針　＜１学期始業式・入学式の式辞より＞

●人の役に立つ　～　「ありがとう」と感謝されることを実行しよう
●仲間の良さを見つける　～　身近な仲間の良いところを見つけよう
●言葉を大切にする　～　思いやりの言葉、優しい言葉、感謝の言葉を遣おう